



ぎふCOC+参加大学
共通プログラム

SUMMER SCHOOL 2016

サマースクール

2016.9.7 WED ▶ 9.9 FRI



国立大学法人

岐阜大学



中部学院大学
大学院 / 大学 / 短期大学部



中部大学



日本福祉大学



名古屋学院大学

CCSC 地域協学センター
Center for Collaborative Study with Community

文部科学省
地(知)の拠点

サマースクールとは

COC+事業では、岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点を増やす企画や、産業界ニーズに適合した人材を育成する教育プログラムを実施しています。

その一環として、参加大学共通プログラムとして、サマースクールを2016年は岐阜県東濃地区で実施しました。このプログラムでは、地域を支えている方々や他のCOC+参加大学の学生と一緒に、地域での「将来」を考えていきます。地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨き、今後のキャリアの選択肢を広げることを目的としています。

A 恵那コース まち・ひと・しごとから暮らしと地域成長を考える

恵那峡や栗きんとんで知られる恵那市。食のテーマパーク「恵那・銀の森」や古民家をリノベーションしてコミュニティハウスをつくったNPO法人えなここ。を訪ねて、恵那のまち・ひと・しごとから地域成長を考えました。



B 多治見コース 地域の産業・観光振興計画とタイル産業の将来を考える

多治見市は、日本一のタイルの街。タイルは、建物の外壁からかわいらしい雑貨まで、とても身近な存在です。多治見市全面協力のもと、ミュージアムや企業の見学を通して、産業振興や観光の可能性を考えました。



C 中津川コース 「食」「農作物」の未来を考える

中津川市には和菓子の文化や栗、トマトのような特産品があります。それを工夫して創り上げている農家などを見学し、地域の人の思いに触れながら特産品の未来に向けた提案を考えました。



A 恵那コース まち・ひと・しごとから暮らしと地域成長を考える

コース説明

恵那コースは「食」「観光」をテーマとし、恵那地域の成長についての可能性を模索しました。現地で事業を展開する企業である「恵那銀の森」とNPO法人「えなここ。」へのフィールドワークを通して、この地域ならではの将来のあり方について、学生が自由な発想で議論を重ねました。

企業の経営者とNPO法人の理事長から直接話を聞くことを通して、地域に根差しながら経営すること、地域に貢献することについての理解を深めることを狙いとし、定住促進、観光についての提言を行いました。

スケジュール

9月7日

- 10:00～11:00 オリエンテーション
- 12:30～13:00 恵那銀の森・散策
- 14:00～15:00 恵那銀の森施設見学・
レクチャー
- 15:30～16:30 えなここ、「桜舎」見学・
レクチャー
- 17:30～19:15 オリエンテーション
- 19:15～20:15 立食懇談会



9月8日

- 9:00～11:00 ゲストスピーカー講義
- 11:00～12:00 グループワーク
- 13:00～18:00 グループワーク
- 19:30～20:00 中間発表



9月9日

- 10:00～12:00 最終発表会



参加学生の感想

●日本福祉大学3年

サマースクールに参加して、東濃地区の魅力を知ることができました。現場の見学や、ゲストの方のお話を通じて、その土地で暮らしている方、働いている方が、その土地の自然や資源を何とか活かそうとアイデアを出して実現している姿にその方たちの凄味を感じました。また、自分たちで政策提案を考える2日目と3日目のグループでの話し合いやプレゼンでは、何かを伝えるためには、常に相手を意識することの大切さを学びました。サマースクールに参加するまでは、対立を恐れて自分の意見を言うことになかなか踏み出せませんでした。合意をして物事を決めていくには、自分の意見を言って、譲り合うことが必要で、その力を高めることができたと思えました。

●中部大学3年

岐阜県出身者なので、地域を盛り上げるために活動している企業・団体があることを知ってうれしくなり、地方ならではの魅力をもっと発信できたら良いと思いました。岐阜県の抱える問題を題材に他の学生と討論できたこともとても良かったです。意見が割れ、行き詰まることもありましたが、みんなの意見をすり合わせてグループとして一つにまとめることができ、活動の狙いでもある実践的思考力を鍛えることができたと思います。そして活動を通して、成長を感じることもできました。

卒業後は岐阜県に戻って就職し、地域を担う一員として活躍していきたいと思っています。

受入関係者からのコメント

●株式会社銀の森コーポレーション 渡辺 代表取締役社長

「恵那の交流人口が400万人。銀の森へは40万人と、私たちは少ないと考えている。本日数字で見せてもらい、根性を入れて頑張らないといけないと感じた。出来れば60万人まで増やしていきたいと思っている。恵那市全体をみながら銀の森のことを考えてもらえた。恵那をもっと盛り上げていきたいと思ってこの地で取り組んでいる。学生の皆さんにも是非、東濃を好きになって、恵那・中津・多治見・恵那の銀の森にきてもらいたい。」



引率者からのコメント

●遠藤 准教授(日本福祉大学)

地域成長につながる重要な地域課題を学生が意識したことが大きな成果でした。ただ、提案の中で【恵那市だからこそ】の部分がもう一歩、各班に共通する改善点です。「魅力を知る」という、シンプルで難しい問題にたどり着いた学生の今後の成長に期待したいと思います。



B 多治見コース 地域の産業・観光振興計画とタイル産業の将来を考える

コース説明

多治見コースはタイルによる産業観光の可能性の模索をテーマとしました。タイル離れ、海外企業との激しい争いといった厳しい外部環境の中で、多治見市内に新設されたモザイクミュージアム、意欲的に新しい取り組みを実施している複数のタイルメーカーである「株式会社オザワモザイクワークス」、「杉浦製陶株式会社」への見学やインタビューを行いました。産業振興施策、産業を活かしたまちづくりへの理解を深め、モザイクタイルミュージアムへの改善案や観光プランの提案などを行いました。

スケジュール

9月7日

- 11:15～12:00 幸兵衛窯・市の倉
さかづき美術館見学
- 13:10～15:00 モザイクタイル
ミュージアム見学
- 15:10～16:00 (株)オザワモザイク
ワークス見学
- 17:30～19:15 オリエンテーション
- 19:15～20:15 立食懇談会



9月8日

- 9:30～10:30 杉浦製陶(株)見学
- 11:00～12:00 講義(多治見について)
- 13:00～14:00 本町オリベストリート見学
- 14:00～17:00 グループワーク
- 19:30～20:00 中間発表



9月9日

- 10:00～12:00 最終発表会



参加学生の感想

●名古屋学院大学

多治見市と聞いて私は、暑いというイメージしかありませんでした。しかし今回サマースクールに参加してみて、多治見市はタイルの生産量が日本一ということを知り、多治見市は暑いだけではないということを知りました。そして、2泊3日のサマースクールを通して、他大学、他学年のいろいろな人たちとコミュニケーションをとりながら意見交換をしていくことで、自分にはなかった考え方や、新たなものの見方などを学ぶことができました。この2泊3日という長いようで短かった時間は、普段できないような経験ができた、新たな発見があったり、私にとって有意義な時間を過ごせた貴重な体験となりました。

●岐阜大学1年

多治見といえば?!…暑い!という言葉が聞こえてきそうですが、多治見は暑いだけではなく、タイルの生産量が日本一ということを私はサマースクールに参加して初めて知りました。私がサマースクールに参加した理由は、岐阜について知りたい、他大学生と意見を交換してみたいと思ったからです。二泊三日の間で初対面の人と一つの事柄について考え、良い発表をしようと夜中まで頭をひねったことから学ぶことが多く、大学生の間にしておくべき貴重な経験ができたと感じています。自分の知っていることは一部分にしか過ぎないことに気づき、学び続けようという刺激を受けました。

受入関係者からのコメント

●多治見市産業観光課 水野 統括主査

多治見のタイル産業は時代と共に変化してきた歴史があり、その中で、現在のタイル商品群と直面している課題がある。このことを理解した上で考えてほしいとの思いから、かなり詰め込んだタフなコースとなりましたが、学生の皆さんには、バックボーンをしっかりと理解して頂いた上での、若い感性を盛り込んだ素敵な発表をして頂きました。モザイクタイルミュージアムのリピーター増加と若者誘客を狙ったハート形のタイルの+キャッチコピーの提案や、左宮屋さんを講師としたタイル内装のDIY教室の提案等、市の産業観光に対する課題に踏み込んだ素晴らしい発表でした。



引率者からのコメント

●家本 教授(名古屋学院大学)

3つの班ともご苦労様でした。冒頭に大人の創意工夫を学びなさいと申し上げました。もっと学生の独自の視点が欲しかった。学生の皆さんは提案をしなければいけない。一方で、提案の中では、面白いのが有りました。自分たちの主張を形にしようとキャッチフレーズなどもありぐさっと来る言葉もありました。最後に、多治見市役所の皆様、時間的にタイトであったが全部整えていただき、感謝申し上げます。



C 中津川コース 「食」「農作物」の未来を考える

コース説明

中津川コースは農業の六次産業化をキーワードに、個人で直売所経営を行っている「はやし農場」、農業生産法人の「めぐりん」、グローバル展開もしている株式会社サラダコスモが運営する「ちこり村」と、規模の違う3つの農業関係の企業を見学した他、中津川市の農業振興課と株式会社七ツ平高原の方からお話をうかがいました。

農業を取り巻く環境や課題について理解を深め、今後に向けた取組みについて議論し、提案を行いました。

スケジュール

9月7日

- 12:00～13:00 はやし農場見学
- 13:15～14:00 めぐりん見学
- 14:30～16:00 ちこり村見学
- 17:30～19:15 オリエンテーション
- 19:15～20:15 立食懇談会



9月8日

- 9:15～10:00 ゲストスピーカー講義
- 10:10～11:30 関係者ヘインタビュー
- 13:30～18:00 グループワーク
- 19:30～20:00 中間発表



9月9日

- 10:00～12:00 最終発表会



参加学生の感想

● 中部学院大学2年

サマースクールの中津川コースに参加して、はやし農場を見学したり、ちこり村などの農業施設を見学して、農業従事者の方の工夫や、日本の農業の問題点を見つけることができました。最後に、スライドを作りました。会ったことも話したこともない他大学の学生と協力することはとても難しかったですが、話し合いを重ねて、協力してスライドを作ることができました。あまり納得のいくようなスライドを作ることはできず、来賓の方からも厳しい指摘を受けてしまいましたが、他大学の学生と協力して1つのものを作り上げたことはとてもよかったと思いました。また機会があったら、ぜひ参加したいと思いました。

● 岐阜大学1年

私は、せっかく岐阜に来たのだから、この地域についてもっと知りたいと思い、このサマースクールに参加しました。今回参加したことで、思ってもみなかった学びがたくさんあり、自分自身の実力や課題を見出すことができました。

私の中でとても印象に残っているのは、ほかの班の最終発表です。自分自身は満足のいく提案ができず、自分の知識や能力不足を痛感していたのですが、レベルの高い発表をした班もあり、自分との差をありありと見せつけられたように感じました。

もっと知識を広げたい、成長したいと思えるような良い経験ができたと感じています。

受入関係者からのコメント

● 中津川市市民協働課 伊藤 課長

各グループにおいては、農業の六次産業化に関して整理したうえで具体的な提案が行われていました。ターゲットを50歳としたテーマや、仲介役が必要という点に着目し、具体的に学生が関与したうえで行政と農業・企業がWin-Winとなる具体的な提案は、行政にとっての関心事であり実現に向けて進めていきたいと思うような発表も聞くことが出来て有意義だったと考えています。



引率者からのコメント

● 三井 教授(岐阜大学)

実際に農家の作業工程や農作物の販売方法を見学する中で、農業の厳しい現状を実感したと思います。地域の課題を考えるにあたり、事前準備や幅広い知識が重要であることを痛感しながらも、短期間において具体的な解決策の提示にむけて学生同士で試行錯誤した過程は、これから地域の課題解決へ取組む際に活かしていくことと期待しております。ご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。



アンケート結果

1.大学を教えてください

	岐阜大学	中部学院大学	中部大学	名古屋学院大学	日本福祉大学	合計
回答数(%)	13(31.0%)	3(7.1%)	13(31.0%)	8(19.0%)	5(11.9%)	42(100%)

2.学年を教えてください

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
回答数(%)	11(26.2%)	15(35.7%)	15(35.7%)	1(2.4%)	42(100%)

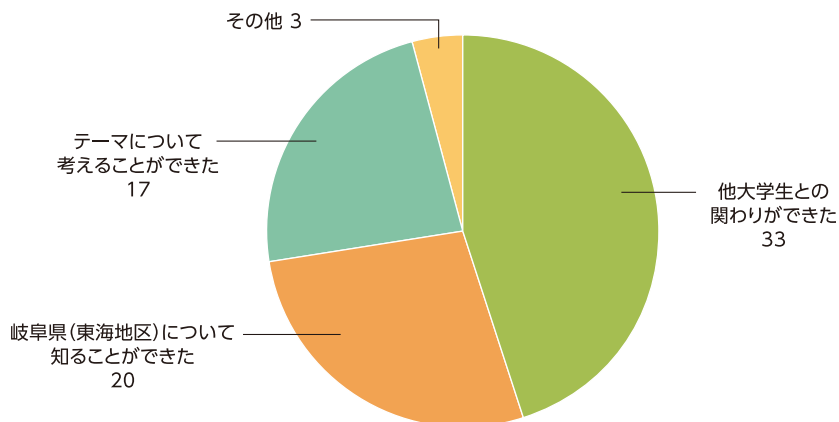
3.どのようにしてサマースクールを知りましたか(複数回答可)

	チラシ	学内掲示	HP	友人に誘われた	教職員に勧められた	その他	合計
回答数	11	11	1	7	24	2	56

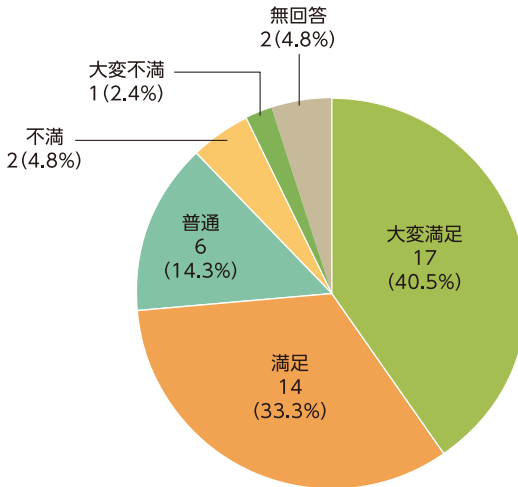
4.参加しようと思った理由は何ですか(複数回答可)

	他大学と 関わりができる	岐阜県(東濃地区)に ついて知りたい	テーマに 興味があった	訪問先に 興味があった	
回答数	15	8	10	2	
	友人に誘われた	教職員に 勧められた	教育プログラムの 関係	その他	合計
回答数	5	16	6	3	65

5.参加して良かったことは何ですか(複数回答可)



6(1).現地見学の満足度を教えてください



6(2).初日夜の全体ワークショップの満足度を教えてください

	大変満足	満足	普通	不満	大変不満	無回答	合計
回答数 (%)	13 (31.0%)	15 (35.7%)	11 (26.2%)	3 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	42 (100%)

6(3).レクチャー・講義の満足度を教えてください

	大変満足	満足	普通	不満	大変不満	無回答	合計
回答数 (%)	15 (35.7%)	14 (33.3%)	13 (31.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	42 (100%)

6(4).グループワークの満足度を教えてください

	大変満足	満足	普通	不満	大変不満	無回答	合計
回答数 (%)	10 (23.8%)	17 (40.5%)	12 (28.6%)	3 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	42 (100%)

6(5).中間発表の満足度を教えてください

	大変満足	満足	普通	不満	大変不満	無回答	合計
回答数 (%)	10 (23.8%)	17 (40.5%)	10 (23.8%)	5 (11.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	42 (100%)

アンケート結果

6(6).最終発表の満足度を教えてください

	大変満足	満足	普通	不満	大変不満	無回答	合計
回答数(%)	16 (38.1%)	11 (26.2%)	11 (26.2%)	4 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	42 (100%)

6(7).教職員の対応の満足度を教えてください

	大変満足	満足	普通	不満	大変不満	無回答	合計
回答数(%)	15 (35.7%)	13 (31.0%)	6 (14.3%)	1 (2.4%)	3 (7.1%)	4 (9.5%)	42 (100%)

7.現地見学について、見学先の数はいかがでしたか

	多すぎる	多い	ちょうどよい	少ない	少なすぎる	無回答	合計
回答数(%)	4 (9.5%)	13 (31.0%)	19 (45.2%)	5 (11.9%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	42 (100%)

8.今後も同様の企画があれば参加したいですか

	積極的に参加したい	内容次第で検討する	参加しない	無回答	合計
回答数(%)	5 (11.9%)	32 (76.2%)	2 (4.8%)	3 (7.1%)	42 (100%)

充実した三日間、
お疲れ様でした!



写真で振り返るサマースクール

Summer School Pictures

Field Work



Group Work



Presentation



Off Shot



あとがき



ぎふCOC+参加大学共通プログラム
サマースクール責任者
岐阜大学地域協学センター
副センター長

佐々木 実 教授

少子高齢化をピンチと捉えるか、チャンスと捉えるか。 課題をチャンスに変えられる人材を育てていきたい。

日本の現状を見ると高成長から低成長にパラダイムシフトが行われています。人工知能が囲碁や将棋のトッププロに勝利しているように、新しい時代が到来しつつある一方で、地域の課題は複雑化・深刻化してきています。少子高齢の時代の中で、色んな課題がありますが、うまくいっている事例は少なく、民間も行政も苦しんでいます。今の日本は課題が山積し、課題先進国と言われています。この課題をピンチと捉えるのか、それともチャンスととらえることができるか、私達大学で育てるべき人材は、課題解決に向けて行動し、課題をチャンスに変えていける人であると思っています。

このサマースクールでは、今まで学んできた環境を離れ、初めて出会った他大学の学生とチームを組み、課題解決に向けて、色々な意見を持つ人と出会い、触れる機会となっています。地域の課題を解決するには長年にわたる取り組みが必要であり、2泊3日で取り組むには大きな課題ではあると思いますが、期間が短い分、濃密で実践的でありながら、地域で生きるということに触れてみるのにちょうど良い機会となるのではないのでしょうか。

地域課題の解決策という万能薬は無く、学生生活の間に、答えの無い問いに挑むという経験は社会に出てからの財産になります。社会では、与えられたことに満足するのではなく、自らがまだ世の中にない新しい答えを作っていく場所だと思っています。今回の最終発表で満足できた人も満足できなかった人もいるかと思いますが、大切なのは、このサマースクールを終わってから何をするかです。サマースクールは地域と向き合うきっかけであり、ここで学んだことをどう生かすのかは自分次第です。

今回のサマースクールでは、行政、企業、NPO法人など多種多様な人とコラボレーションして、取り組むことができました。私たちはCOC、COC+事業を通じて、地域で活躍できる人材を育成することで、地域に貢献していきます。最後に今回のサマースクールでご協力をいただいた皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ぎふCOC+事業推進コンソーシアム

文部科学省

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

ぎふCOC+参加大学共通プログラム

サマースクール2016

編集・発行 岐阜大学 地域協学センター
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL .058-293-3168
FAX.058-293-3167
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

発行 平成29年3月



国立大学法人

岐阜大学



中部学院大学
大学院 / 大学 / 短期大学部



中部大学



日本福祉大学



名古屋学院大学



文部科学省

地(知)の拠点



サマースクール2016 概要

期 間	2016年9月7日(水)～2016年9月9日(金)
開催場所	中部大学恵那研修センター
参加大学	岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学
学生人数	44名

国立大学法人 岐阜大学

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL.058-230-1111(代表)

岐阜大学 サテライトキャンパス

〒500-8844 岐阜市吉野町6-31 岐阜スカイウイング37 東棟4F TEL.058-212-0390(代表)

CCSC 地域協学センター
Center for Collaborative Study with Community

[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp [URL] <http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

TEL.058-293-3168 FAX.058-293-3167